

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600343		
法人名	日総ふれあいケアサービス(株)		
事業所名	ふれあいの里グループ山法師1F		
所在地	苫小牧市日吉町1-2-23		
自己評価作成日	令和3年3月21日	評価結果市町村受理日	令和3年4月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0193600343-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・コロナ禍での影響から町内活動、近隣の小学校や保育所との定期的な交流活動が限定的になっているが、中でも密にならない行事等に参加し入居者様は地域住民の皆様と共生して生活が出来る様に積極的に取り組んでいます。
 ・特に事業所では職員と利用者様が共同で距離を保ち衛生を心がけ手作りおやつを作成し召し上げる時間(団欒タイム)に力を入れアットホームな空間を職員一同支援に心がけてます。
 ・コロナ禍での交流を減少させない取り組みも「リモート面会・電話・メール・ブログ」等を活用し利用者様の日常が外部の皆様に分かりやすく対応を致しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里グループ山法師」は、JR苫小牧駅からバスで15分程の住宅地に立地しているグループホームで、近くにはバス停や公園、スーパーマーケットもあり生活の利便性が高い事業所である。管理者を中心に全職員で利用者一人ひとりの意思を尊重し、それぞれが役割を持って生き生きとした日々が送れるように温かな支援を行っている。今年度は感染症の流行により地域交流は難しかったが、感染対策を取りながら利用者と一緒に地域の清掃活動に参加したり、保育園児からプレゼントが届けられるなど可能な限りの交流を行っている。新型コロナウイルス感染症対応として、管理者を中心に早期にゾーニング研修を実施するなど事業所として感染症対策にも積極的に取り組んでいる。医療面では歯科医の往診体制を整え、殆どの治療を事業所内で実施することで利用者の受診負担を減らしている。また、専属の薬剤師による服薬管理を行い誤薬防止につなげている。食事面では、月1回の出前や管理者による手作りおやつの日もあり利用者の楽しみになっている。感染症の流行で面会ができない期間も家族から差し入れを受けするなど、温かな支援を受けている。管理者と職員は、新人職員の話に耳を傾けて新たな視点での貴重な意見や提案として運営やケアに取り入れるなど、日々向上心を持って努力している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に必ず管理者より教育の時間が取り入れられている。(基本マニュアル・eランニング)等を参照し理念を共有して実践につなげる取り組みがなされている	施設理念に「地域とのつながりを大切にします」という、地域密着型サービスの意義を踏まえた文言が含まれている。事業所内に掲示し、ネームプレートの裏にも記載している。毎朝申し送りで唱和し、全職員で共有しながら実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍での感染対応となりお互いに自粛傾向であるが、密にならない程度の交流(清掃活動)やホームにウエス・オムツ寄贈などして下さり交流が図られている	クリスマス会に保育園児が来訪して遊戯を披露していたが、今年度は感染症の流行のため、園児からプレゼントが届けられた。感染対策をしながら、利用者と一緒に地域のごみ拾いに参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で運営推進会議や地域交流が自粛傾向であるが、町内会の婦人部や小学校・幼稚園などの交流の場を継続で維持し状況や情報を共有し交流が図られている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍での感染対応となり運営推進会議も開催が出来ない状況下であったが、ご家族様とのリモート面会など取り入れて意見や要望を収集しサービス向上に活かした	今年度は書面開催とし、電話などで家族の意見や質問を聞き取り議事録で答えている。感染症流行前は、行政や地域代表、家族の参加を得て口腔ケアや薬剤師による薬の飲み合わせの勉強会を実施している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍での連絡は市役所との電話連絡や書類での通達等でお互いに連絡が密に図られている	地域包括支援センターに事業所の最新パンフレットを届けたり、生活支援担当者や電話やメールで情報交換している。市役所に感染症流行時の見学対応について相談するなど、普段から連絡を取り連携を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内に不適切ケア委員会が設置されている(1F・2Fに専任委員が各1名配置)され定期的に会議も開催され情報の共有が図られている。全職員にも会議での問題点を回覧し注意喚起や是正措置などが管理者よりその都度指示説明がある。	禁止の対象となる具体的な行為を記載したマニュアルを整備し、3か月ごとの不適切ケア委員会で勉強会を行っている。入社日に不適切な対応や言葉遣いについて研修を実施している。職員は法人の身体拘束研修を定期的に受講している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(6・5)同上と法人内に身体拘束・虐待防止のマニュアルやeランニング活用など常に学ぶ機会が全職員に与えられている		

ふれあいの里グループホーム山法師

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内部:外部研修に参加し学ぶ機会があり、現状においても成年後見人制度を利用されている利用者様がいる「現状で弁護士・行政書士」		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様の入居時に管理者が利用者様のご家族様と書類の内容確認を一緒にして不安や疑問点などを説明し納得して頂ける様に時間をかけた説明が図られている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍での来訪自粛対応からリモート面会や電話連絡:ラインメールなど利用し多くの意見や要望が反映されやすい方法の構築活動が図られている	介護計画の更新時や普段の電話、メールで家族の意見や要望を聞き取り、パソコン内に記録している。毎月「えがお通信」を家族に送付しているが、今後は個別のお便りも発行したいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ禍で密を避けての短時間での定期的なユニット会議:個別面談等の実施や随時職員は意見を述べられる体制になっている。「法人の人事課より個別にアンケートも実施」	管理者やリーダーは申し送りや業務の中で職員の意見や提案を聞き取り、書類の記載方法や利用者への対応などに活かしている。管理者や既存職員は新たな視点での貴重な意見や提案であると捉え、新しい職員の話に真摯に耳を傾けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として、全職員に対し資格取得やスキルアップに繋がる機会が常に与えられている。各自の状況に応じて勤務変更等での優遇措置も図られている。その他では柔軟な勤務体制「働き方改革」等も取り入れられている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己評価12「同上」や各職員の入社歴や経験値等を考慮し内部:外部研修に職員の希望で参加出来る機会が常に与えられている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会主催や胆振地域での研修会「他の法人が窓口での合同研修会」に参加し意見交換や情報交換し交流を深めサービスの質の向上させる取り組みがされていたがコロナ禍で自粛対応となり電話やメール・ライン等での交流にシフトされている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様が入居前に見学や面談等やご本人様とご家族様から過去の生活歴をお聞きしフェイスシートの作成と活用でニーズを探り職員間で情報共有を図り支援に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や入居時に必ず利用者様やご家族様の困っている事や不安に感じている事に耳を傾け、ご家族様との関係づくりに努めている。要望等も可能な限り実現できるように心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前後で生活状況(過去の生活歴)等を事前にお渡ししているフェイスシートを活用し(アセスメントし、入居者様の必要なニーズを再検討支援に努めます		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	継続で職員と一緒に台所での炊事活動、盛り付け・味付け・食器洗い・日常生活での慣れ親しんできたことを、見極めながら得意なことを活用しながら職員は同じ立場で寄り添い関係を大切にしている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で関わりが持てない中でお便りやメール・電話・ブログ等にて入居者様の状況を伝えている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外部からのお客様が来訪された時には、来訪されやすい環境に配慮し、関係が途切れない支援に努めている	習い事の友人やデイサービスの知人が訪ねて来たり、馴染みの美容室や自宅に帰る利用者もいた。近所に住んでいた方などから手紙や電話が来ることもある。感染症の収束後は、馴染みの方との交流や外出を増やしていきたいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の個性を尊重し柔軟に食席の配置やレクリエーション活動での職員の仲介対応など支援に心がけ関わりが途切れ孤立しない対応に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様の退去後も、ご家族様が来訪されたり、職員が転所先の病院や施設にコロナ禍前には相談や支援に努めていた。コロナ禍後からはご家族様には電話対応に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	過去の生活歴を把握し、センター方式を活用「定期的に更新」しての状況把握を行い。職員全員とご家族様の意見を取り入れカンファレンス会議で検討し本人様の本意に沿うように検討を重ねている	会話や表情、食事の食べ方やいつもと違う行動などから思いや意向を把握している。センター方式シートを活用し、変化に応じてパソコン内の情報を更新している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・同上「23・9」		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体的・精神的な状況や残存能力を日々の生活の中で把握に努め介護記録に落とし込んでいる。その情報を役職者と職員間で毎朝の引継ぎで共有し支援に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活状況での変化を詳細に把握し職員間で評価検討し、ご本人様・ご家族様の意向を汲み取りながら、利用者様に即した計画を作成し支援に努めている	計画作成担当者を中心に全職員で評価を行い、家族の意向を聞き取りながら3か月ごとに介護計画を作成している。今後は、家族の意向を具体的に確認してサービス計画書(1)に記載し、更に計画につなげられるよう工夫したいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の生活状況での変化を早期に把握し職員間で情報の共有を図りながら支援で実践し介護記録に記入し適した介護計画の見直しに活かして支援に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様・ご家族様の現状での状況を把握しその状況を考慮し「往診・受診・緊急時」などで必要と思われるサービスは支援は柔軟に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍前では、小学校・保育園・町内会等の行事等に参加し関わりが継続で持てる支援が出来ていた。その他では外部からの傾聴ボランティアも活用し対応がなされていた		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	コロナ禍より受診が困難になってきている。ご本人様とご家族様の意向を重要視しながら、事業所はかかりつけ医とのスムーズに適切な医療を受けられる様に支援に努めている。「訪問診療・訪問歯科・訪問看護」	内科、歯科、皮膚科の往診対応がある。かかりつけ医を家族と受診する時は、バイタル表やメモ書きで本人の様子を伝えることもあり、主治医から書面で受診結果を受け取ることもある。往診と受診の情報は、個別にパソコンで管理している。	

ふれあいの里グループホーム山法師

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの医療提供病院の訪問看護師がコロナ禍前には月2回訪問されていたが、コロナ禍よりリモート対応での相談で医療職からの視点から受診の必要性や緊急対応が速やかに行えるように情報共有し支援に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホームからの介護添書等を作成し病院関係者と情報交換や最新での身体状況を相談に努め、退院時もカンファレンス会議を開催し医療従事者からの情報提供と利用者様の変化に適した支援がされ医療従事者との連携がされている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様とは日頃から重度化、終末期に向けての方針をご家族様と話し合いの場を設けている。状況に応じてご家族様からの早期の相談も受付し早期の段階から検討、取り組みをしている。	見学时に「重度化した場合の対応に係る指針」に沿って事業所としての方針を伝え、利用開始時に再度説明している。体調変化に応じて主治医と家族、事業所の方針を話し合い、他の施設への移行についても一緒に考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は苫小牧市：日本赤十字等主催の赤十字救急法救急員・AED使用法の講習会を受講し資格取得がされている。本年も研修会参加に向けて調整中である		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合訓練の他に火災・津波の災害避難訓練を実施している。近隣住民や町内会にもご協力をお願いしている。直近は令和02年09月28日と令和02年11月11日に訓練を実施している。次回は令和03年05月に予定している	今年度は、昼夜を想定した火災や水害の自主訓練を行っている。管理者とリーダーは救急法基礎講習を受講しており、職員の普通救命講習も計画的に進めている。火災以外の災害時のケア別対応についての話し合いが不十分な面もみられる。	地震時など、利用者ごとのケア別対応について話し合い、定期的に職員間で対応を再確認するよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格の尊重とプライバシーを支援での基本と捉えて対応「排泄時：入浴時」など同性介助で羞恥心に対する配慮も考慮した対応と言葉かけで対応に努める	入社時の他、必要に応じて言葉かけに関する内部研修を行っている。利用者の希望に応じて愛称で呼ぶこともある。個人情報のデータはパソコン上で管理し、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人宛に意思確認の声かけを行い、言葉で表現できない利用者様には表情などから思いを汲み取り、自己決定が出来る様に働きかける		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の生活スタイルを尊重し、希望や要望に合った柔軟な生活が出来る様に心がけている。職員が業務優先で利用者様の生活リズム・ペースを崩さない様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ禍で馴染みの美容室や化粧品店・衣料品店など自粛傾向であるが、リモートでの面会でご家族様やご本人様からの要望や希望を取り入れた支援に心がけている		

ふれあいの里グループホーム山法師

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と職員と一緒に調理や盛り付けをしたり、食事の片付け「食器洗い:食器拭き:テーブル消毒」など準備から片付けを利用者様の状況に適した支援に心がけている	法人作成の献立を使用している。利用者も可能な調理を一緒に行っており、海苔巻やいなり寿司などを作っている。おやつに畑で取れたジャガイモで芋団子を作るなど利用者の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人本部に管理栄養士が配置されていて、利用者様の栄養バランスを考慮したメニュー提供が毎月されている。「カロリー計算・調理方法」などもメニュー表に記載されている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の前後・就寝前・起床時での口腔ケア(歯磨き・義歯洗浄)を行い、又洗口液を使用する等での個々の状況に応じた支援がされている。訪問歯科医より口腔衛生の指示や説明も毎月受けている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄パターンをPC入力よりデータ確認でき、利用者様の羞恥心やその時の体調等も職員は把握し適時で誘導対応が図られている。トイレの場所の表示やマークも絵で分かりやすく工夫がされている。	パソコン上に個別の排泄を記録している他、排泄表を使用している。自立している利用者も多く、昼夜共にトイレで排泄できるよう支援している。利用者の希望で時間帯に応じて使用する排泄用品を替えるなど、本人の意向を尊重しながら自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士が考慮しメニュー作成がされているが、利用者様の個々の状況に応じて食物繊維:乳酸菌飲料:無理のない範囲で体操や歩行訓練を取り入れ支援がされている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様は最低週2回は確実に入浴が楽しめ、その他の日にも希望や個々の状況により入浴が毎日可能である。曜日や時間は利用者様の意思確認をし柔軟な対応がされている	毎日入浴が可能であり、午前を中心に入浴支援を行っている。本人の希望で週4回程入浴したり、シャワー浴にすることもある。入浴剤を使用したり、ゆず湯などの季節湯やバラの花を湯船に浮かべたこともあり、入浴を楽しむことができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の過去の生活歴や習慣を尊重しその時々状況に応じ職員は良眠出来る様に支援がされている「日中でのレクリエーション活動:運動量」を多く取り入れ工夫している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局の療養管理指導(薬剤師)が主治医の処方箋を管理し処方薬をセットし職員に処方薬での指示と説明があり情報共有が図られ、薬事情報はフェイスシートに保管されている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の入居前からの生活歴を収集(センター方式活用)から出来ることや好きなことが生活で活かせるような支援が図られている。春から畑作業・ドライブ・外食等を取り入れる。		

ふれあいの里グループホーム山法師

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状はコロナ禍で利用者様が希望されても外出支援は自粛傾向となっている。今後の社会情勢等の動向を考慮した支援が検討されている。密にならない近隣の公園やご家族様のご自宅、嗜好品購入での近隣のお店に出かけられる支援を検討している	感染症の流行により外出を自粛しているが、以前はドラッグストアやスーパーマーケットなどへの個別の買い物支援や、バス遠足として利用者・家族・職員で登別マリノパーククニクスやノーザンホースパークなどに出かけていた。今後も感染症の収束状況に応じて外出を再開したいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前まではお金の所持は法人の規定で禁止されていたが、今回の運営規定より少額の所持は可能となっている。利用者様の希望や力に応じて、外出し購入支援を検討している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	何時でも外部との電話や手紙での支援が出来る支援がされている。利用者様の希望や要望があれば職員がその都度対応し関わりが途切れない支援に心がけている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に季節感や生活感が感じ取れる館内のディスプレイを職員は工夫し定期的に変えている。共用空間や利用者様の居室での居心地の良い環境作りには職員は毎日配慮確認している(館内の湿度:温度:換気:消毒)	対面式のキッチンから見渡せるリビングは花などの飾り付けがされており、窓も多く明るく広々とした空間となっている。回廊式の廊下になっており、玄関近くの廊下には桜など、季節の物が飾られている。利用者の写真、事業所発行の「えがお通信」や利用者が描いた絵なども飾られており、家庭的な温もりが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の退去・入居から関係づくりが希薄になり共用空間での居場所で落ち着かない等職員は落ち着ける居場所の提供や他の利用者様との円滑な交流が図れる支援をしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の居室入口に職員の手作り表札が掲げられている。各居室には温度計・湿度計も設置され居心地の良い環境整備が図られている。居室内は利用者様が使い慣れた物が主に配置され快適に過ごせる工夫がされている	クローゼットが備え付けられている。ベッドやタンス、机、椅子など慣れ親しんだ家具の他、テレビやラジカセなど好みの物を持ち込んでいる利用者もいる。家族や動物の写真、利用者作成のスクラッチアートなどを飾り付けており、自分の好みの落ち着いた居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内はバリアフリー対応がされている。居室・トイレ・浴室等も視覚で認識できる図柄で表記され工夫がされている。歩行状況も考慮し「車椅子・歩行器」も用意されている		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600343		
法人名	日総ふれあいケアサービス(株)		
事業所名	ふれあいの里グループ山法師2F		
所在地	苫小牧市日吉町1-2-23		
自己評価作成日	令和3年3月21日	評価結果市町村受理日	令和3年4月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvsoyCd=0193600343-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・コロナ禍での影響から町内活動、近隣の小学校や保育所との定期的な交流活動が限定的になっているが、中でも密にならない行事等に参加し入居者様は地域住民の皆様と共生して生活が出来る様に積極的に取り組んでいます。
 ・特に事業所では職員と利用者様が共同で距離を保ち衛生を心がけ手作りおやつを作成し召し上がる時間(団欒タイム)に力を入れアットホームな空間を職員一同支援に心がけてます。
 ・コロナ禍での交流を減少させない取り組みも「リモート面会・電話・メール・ブログ」等を活用し利用者様の日常が外部の皆様に分かりやすく対応を致しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に必ず管理者より教育の時間が取り入れられている。(基本マニュアル・eランニング)等を参照し理念を共有して実践につなげる取り組みがなされている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍での感染対応となりお互いに自粛傾向であるが、密にならない程度の交流(清掃活動)やホームにウエス・オムツ寄贈などして下さり交流が図られている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で運営推進会議や地域交流が自粛傾向であるが、町内会の婦人部や小学校・幼稚園などの交流の場を継続で維持し状況や情報を共有し交流が図られている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍での感染対応となり運営推進会議も開催が出来ない状況下であったが、ご家族様とのリモート面会など取り入れて意見や要望を収集しサービス向上に活かした		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍での連絡は市役所との電話連絡や書類での通達等でお互いに連絡が密に図られている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内に不適切ケア委員会が設置されている(1F・2Fに専任委員が各1名配置)され定期的に会議も開催され情報の共有が図られている。全職員にも会議での問題点を回覧し注意喚起や是正措置などが管理者よりその都度指示説明がある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(6・5)同上と法人内に身体拘束・虐待防止のマニュアルやeランニング活用など常に学ぶ機会が全職員に与えられている		

ふれあいの里グループホーム山法師

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内部：外部研修に参加し学ぶ機会があり、現状においても成年後見人制度を利用されている利用者様がいる「現状で弁護士・行政書士」		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様の入居時に管理者が利用者様のご家族様と書類の内容確認を一緒にして不安や疑問点などを説明し納得して頂ける様に時間をかけた説明が図られている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍での来訪自粛対応からリモート面会や電話連絡：ラインメールなど利用し多くの意見や要望が反映されやすい方法の構築活動が図られている		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ禍で密を避けての短時間での定期的なユニット会議：個別面談等の実施や随時職員は意見を述べられる体制になっている。「法人の人事課より個別にアンケートも実施」		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として、全職員に対し資格取得やスキルアップに繋がる機会が常に与えられている。各自の状況に応じて勤務変更等での優遇措置も図られている。その他では柔軟な勤務体制「働き方改革」等も取り入れられている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己評価12「同上」や各職員の入社歴や経験値等を考慮し内部：外部研修に職員の希望で参加出来る機会が常に与えられている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会主催や胆振地域での研修会「他の法人が窓口での合同研修会」に参加し意見交換や情報交換し交流を深めサービスの質の向上させる取り組みがされていたがコロナ禍で自粛対応となり電話やメール・ライン等での交流にシフトされている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様が入居前に見学や面談等やご本人様とご家族様から過去の生活歴をお聞きしフェイスシートの作成と活用でニーズを探り職員間で情報共有を図り支援に努めている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や入居時に必ず利用者様やご家族様の困っている事や不安に感じている事に耳を傾け、ご家族様との関係づくりに努めている。要望等も可能な限り実現できるように心がけている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前後で生活状況(過去の生活歴)等を事前にお渡ししているフェイスシートを活用し(アセスメントし、入居者様の必要なニーズを再検討支援に努めます			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	継続で職員と一緒に台所での炊事活動、盛り付け：味付け：食器洗い：日常生活での慣れ親しんできたことを、見極めながら得意なことを活用しながら職員は同じ立場で寄り添い関係を大切にしている			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で関わりが持てない中でお便りやメール・電話・ブログ等にて入居者様の状況を伝えている			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外部からのお客様が来訪された時には、来訪されやすい環境に配慮し、関係が途切れない支援に努めている			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の個性を尊重し柔軟に食席の配置やレクリエーション活動での職員の仲介対応など支援に心がけ関わりが途切れ孤立しない対応に努めている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様の退去後も、ご家族様が来訪されたり、職員が転所先の病院や施設にコロナ禍前には相談や支援に努めていた。コロナ禍後からはご家族様には電話対応に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	過去の生活歴を把握し、センター方式を活用「定期的に更新」しての状況把握を行い。職員全員とご家族様の意見を取り入れカンファレンス会議で検討し本人様の本意に沿うように検討を重ねている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・同上「23・9」		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体的・精神的な状況や残存能力を日々の生活の中で把握に努め介護記録に落とし込んでいる。その情報を役職者と職員間で毎朝の引継ぎで共有し支援に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活状況での変化を詳細に把握し職員間で評価検討し、ご本人様・ご家族様の意向を汲み取りながら、利用者様に即した計画を作成し支援に努めている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の生活状況での変化を早期に把握し職員間で情報の共有を図りながら支援で実践し介護記録に記入し適した介護計画の見直しに活かして支援に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様・ご家族様の現状での状況を把握しその状況を考慮し「往診・受診・緊急時」などで必要と思われるサービスは支援は柔軟に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍前では、小学校・保育園・町内会等の行事等に参加し関わりが継続で持てる支援が出来ていた。その他では外部からの傾聴ボランティアも活用し対応がなされていた		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	コロナ禍より受診が困難になってきている。ご本人様とご家族様の意向を重要視しながら、事業所はかかりつけ医とのスムーズに適切な医療を受けられる様に支援に努めている。「訪問診療・訪問歯科・訪問看護」		

ふれあいの里グループホーム山法師

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの医療提供病院の訪問看護師がコロナ禍前には月2回訪問されていたが、コロナ禍よりリモート対応での相談で医療職からの視点から受診の必要性や緊急対応が速やかに行えるように情報共有し支援に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホームからの介護添書等を作成し病院関係者と情報交換や最新での身体状況を相談に努め、退院時もカンファレンス会議を開催し医療従事者からの情報提供と利用者様の変化に適した支援がされ医療従事者との連携がされている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様とは日頃から重度化、終末期に向けての方針をご家族様と話し合いの場を設けている。状況に応じてご家族様からの早期の相談も受付し早期の段階から検討、取り組みをしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は苫小牧市：日本赤十字等主催の赤十字救急法救急員・AED使用法の講習会を受講し資格取得がされている。本年も研修会参加に向けて調整中である		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合訓練の他に火災：津波の災害避難訓練を実施している。近隣住民や町内会にもご協力をお願いしている。直近は令和02年09月28日と令和02年11月11日に訓練を実施している。次回は令和03年05月に予定している		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格の尊重とプライバシーを支援での基本と捉えて対応「排泄時：入浴時」など同性介助で羞恥心に対する配慮も考慮した対応と言葉かけで対応に努める		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人宛に意思確認の声かけを行い、言葉で表現できない利用者様には表情などから思いを汲み取り、自己決定が出来る様に働きかける		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の生活スタイルを尊重し、希望や要望に合った柔軟な生活が出来る様に心がけている。職員が業務優先で利用者様の生活リズム・ペースを崩さない様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ禍で馴染みの美容室や化粧品店・衣料品店など自粛傾向であるが、リモートでの面会でご家族様やご本人様からの要望や希望を取り入れた支援に心がけている		

ふれあいの里グループホーム山法師

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と職員と一緒に調理や盛り付けをしたり、食事の片付け「食器洗い:食器拭き:テーブル消毒」など準備から片付けを利用者様の状況に適した支援に心がけている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人本部に管理栄養士が配置されていて、利用者様の栄養バランスを考慮したメニュー提供が毎月されている。「カロリー計算・調理方法」などもメニュー表に記載されている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の前後・就寝前・起床時での口腔ケア(歯磨き・義歯洗浄)を行い、又洗口液を使用する等での個々の状況に応じた支援がされている。訪問歯科医より口腔衛生の指示や説明も毎月受けている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄パターンをPC入力よりデータ確認でき、利用者様の羞恥心やその時の体調等も職員は把握し適時で誘導対応が図られている。トイレの場所の表示やマークも絵で分かりやすく工夫がされている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士が考慮しメニュー作成がされているが、利用者様の個々の状況に応じて食物繊維:乳酸菌飲料:無理のない範囲で体操や歩行訓練を取り入れ支援がされている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様は最低週2回は確実に入浴が楽しめ、その他の日にも希望や個々の状況により入浴が毎日可能である。曜日や時間は利用者様の意思確認をし柔軟な対応がされている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の過去の生活歴や習慣を尊重しその時々状況に応じ職員は良眠出来る様に支援がされている「日中でのレクリエーション活動:運動量」を多く取り入れ工夫している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局の療養管理指導(薬剤師)が主治医の処方箋を管理し処方薬をセットし職員に処方薬での指示と説明があり情報共有が図られ、薬事情報はフェイスシートに保管されている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の入居前からの生活歴を収集(センター方式活用)から出来ることや好きなことが生活で活かせるような支援が図られている。春から畑作業・ドライブ・外食等を取り入れる。		

ふれあいの里グループホーム山法師

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状はコロナ禍で利用者が希望されても外出支援は自粛傾向となっている。今後の社会情勢等の動向を考慮した支援が検討されている。密にならない近隣の公園やご家族様のご自宅、嗜好品購入での近隣のお店に出かけられる支援を検討している		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前まではお金の所持は法人の規定で禁止されていたが、今回の運営規定より少額の所持は可能となっている。利用者の希望や力に応じて、外出し購入支援を検討している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	何時でも外部との電話や手紙での支援が出来る支援がされている。利用者の希望や要望があれば職員がその都度対応し関わりが途切れない支援に心がけている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に季節感や生活感が感じ取れる館内のディスプレイを職員は工夫し定期的に変えている。共用空間や利用者様の居室での居心地の良い環境作りに職員は毎日配慮確認している(館内の湿度:温度:換気:消毒)		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の退去・入居から関係づくりが希薄になり共用空間での居場所で落ち着かない等職員は落ち着ける居場所の提供や他の利用者様との円滑な交流が図れる支援をしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の居室入口に職員の手作り表札が掲げられている。各居室には温度計・湿度計も設置され居心地の良い環境整備が図られている。居室内は利用者様が使い慣れた物が主に配置され快適に過ごせる工夫がされている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内はバリアフリー対応がされている。居室・トイレ・浴室等も視覚で認識できる図柄で表記され工夫がされている。歩行状況も考慮し「車椅子・歩行器」も用意されている		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホーム山法師

作成日：令和 3年 4月 8日

市町村受理日：令和 3年 4月 9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	地震・津波時での、利用者様ごとのケア別対応が職員間で情報共有不足である	1F/2F利用者様の介護度や特性を各ユニット職員で情報共有し災害時に的確な初動態勢が図れる様にする	1F/2F職員間での勤務交流やカンファレンス会議等での情報共有(勉強会)と模擬訓練(シュミレーション)の実施	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。